



# AA日本ニューズレター

〒100-91  
東京都中央郵便局  
私書箱 916

AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス TEL 03-3590-5377  
〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橘ビル 9F FAX 03-3590-5419

No.51

## 感動！感激！そして感謝 ソニックシティが燃えたAA日本20周年記念集会

実質的な実行委員会を組むため、1993年3月に東京飯田橋のセントラルプラザで第一回全体集会が開かれた。この集会の理念はなにか、そもそもAAの集會に“理念”たるものがあるのかないのかという、かましい議論から、この集会の火ぶたが切られたのだ。以来、実に2年間にわたって毎月1回、今年になってからは毎月2～3回、準備のための実行委員会を開いてきた。「AA日本20周年記念集会」と「20TH ANNIVERSARY AA JAPAN」という日本語、英語のロゴを決めることから始まって、開催会場の選定、各実行委員会の結成、ポスター、チケットの公募等が、さしずめ前哨戦と言った感じだった。

この20周年記念集会の開催にあたっては、まず毎年1回開催されるゼネラルサービスミーティングで、開催地域をどこにするか、各地域からどのくらいの人達が来てくれるかなどを、各地域評議員に相談しながら計画を進めた。次に、テーマを決めるのも、ポスターとチケットの図柄募集も全国に呼びかけて行い、実行委員会全体会議で皆で決めていった。特に昨年にポスターやチケットが出来上がってからは、全国6か所のセントラルオフィスを通じて配布や頒布を行い、あっという間に、3月24日がやってきたという次第だった。

会場を大宮ソニックシティに選定するとき、会場側の条件は“国際会議であること”だった。そして当日は“国際会議”の名にふさわしく、日本に住んでいる外国から来たメンバーたちの参加はもちろん、ニューヨークのGSOからも仲間がかけつけてくれた。さらにこの国際性を決定づけたのは別項の第一回アジアオセアニアサービスミーティングに参加するために日本にやって来てくれたニュージーランド、香港、韓国の仲間たちだった。また、在京の英語グループのメンバーたちがアトラクションに参加してくれることになって、自分たちで台本作りから準備を重ね、日本人メンバーも含めて一緒にAA草創期のころの寸劇を行い当日は大喝采を浴びた。ロビーでの幾つもの話の輪のな



かには、ゆったりとした表情の外国人と日本人の顔、顔、顔があった。日本人は日本人、彼らは彼らというぎこちなさはもうそこにはなかった。

蒲田教会でステップミーティングが初めて開かれたのが1975年3月というわけだが、大宮という場所もそのスタートに深い関わりがあった。施設とAAと教会が渾然一体となって、アルコールに苦しむ人達に回復のメッセージを運び始めたのが日本のAAの始まりだったが、当日はそこに関わった仲間たちもほとんど姿を見せてくれた。

この20年間、そこには乗り越えなければならない痛みは幾つもあったけれども、この大宮ソニックシティの会場には癒された満足した表情があふれていた。

その20年間の日本のAAの歩みを、全国のメンバーが関わったかたちで、一冊の本にまとめたいという熱意がついに実った。「AA日本20年の歩み」が会場ではじめて頒布されたのだった。全国7地域のAAがどんな展開をして今日の姿になってきたか、日本のAAが全体としてどんなサービスのあゆみを辿ってきたか、1975年に今のAAがスタートする以前にどんなことがあったのか、“いくたびもの出会いを重ねて”日本のAAが20年の歩みを歩んできたこと全貌が、初めてこの本によって明らかにされていた。

過去に開かれた全国代議員集会の数は多くはないが、そのどれもがワールドサービスミーティング評議員の選挙のためだった。今回20周年記念集会で開催された全国代議員集会の詳しい内容は別項に譲るが、日本のAAがこれまで作りえなかった常任理事会の設置の是非かを、全国の代議員だけに決めてもらおうというもので、九州地域が準備に当たってくれた。10年間をかけてつくられてきたサービス体系が機能し

てこの会合が達成されたのは、感激このうえないものだった。そしてサービス体系の仕上げをすることに、この集会は“ゴー”を出したのである。

この 20 周年記念集会は、過去の記念集会の経験をもとにして運営された。例えば、大ホールの集客力をよくするために、大ホールでの企画があるときは、平行する分科会は設置しなかった。また AA はアルコール本人の集まりであるため、ノン・アルコールで短いスピーチをしていただいたのは JSO の運営にかかわったお二人だけで、メンバー本人の経験の分かち合いに重点が置かれた。大ホールの舞台を飾る色彩ゆたかな布地による晴れがましい演出も、仲間のアイデアと汗の結晶だった。それにもかかわらず、200 名近くの専門家や関係者の方々においでいただき、AA に愛とご理解とご意見をいただいたことに、心から厚くお礼を申し上げます。

約 2 年間、実行委員会は委員長をもとに堂々とした

活動を続けてきた。意見の衝突はあったが、おたがいがお互いの意見を粘り強く聞く、という AA のやりかたで開催の無事終了にこぎ着けることができた。実行委員会では、5 月 23 日、豊島勤労福祉会館で棚卸しをして、それを書類に残し、そして委員会を解散する。お世話した方も、参加していただいた方も、アルコールもノンアルコールの方がたも、通訳をしてくださった方も、また会場やホテル関係のお世話をしてくださった方々も、アトラクションの民謡を支えてくださった方々も、みな無名の形で、ときには黙々と、ときには喜々として、献身的にこの記念集會を支えてくださった。

この集會の理念は何だったのか、その一つは、AA が今後も無名であることを基礎にして、その活動を行っていくことの確認だったのかもしれない。

皆様すべての方々に再度厚くお礼申し上げます。

## 第 1 回アジア・オセアニア・サービスミーティング (AOSM) 開催

世界の AA のサービス構成の中では、隔年に開催されるワールドサービスミーティング (WSM) のほかに、WSM のない年には、ヨーロッパ諸国によるヨーロッパミーティングと中南米諸国が参加する中南米ミーティングがそれぞれに開催され、近隣の国々の間で AA の経験の分かち合いが行われている。そのどちらにも属さない環太平洋地域のサービスミーティングの開催については、すでに 10 年以上も前から提案が出されていたのだが、アジアやオセアニアの諸国がまとめてサービスミーティングを開催することなど、どう考えても非現実的に思われていた。ヨーロッパにしても、中南米にしても、陸続きであり、たとえ数か国語が用いられていたとしても言語の障壁はそれほど深刻ではなく、文化的背景もあまり違わず、そのような会合に参加する経費もそれほど重大ではない。しかしアジア / オセアニアの場合、それぞれの国が海を越えたはるかかなたに位置し、言葉も文化的背景も宗教も、その国独自のものを持ち、まして AA の規模から言えば、オーストラリアやニュージーランドを除けば、どの国も弱小で、その会合のためによその国まで代表を送り出すなど、経済的にも容易なことではない。したがって実現に向けて具体化するよりも、無理なことだと、あきらめていたのだった。

今回初めての AOSM が我が国で開催されることになった経緯については、すでに昨年のニューズレターでお知らせしているため、本誌では省かせていただくが、ともかく、第 1 回 AOSM が、AA 日本 20 周年

記念集會開催前日の 3 月 23 日、ニュージーランド、ホンコン、パヌアツ、韓国、日本の各国からの代表者、ニューヨークにある GSO の所長とアメリカ / カナダ常任理事会常任理事をアドバイザーに、さらにはニュージーランドと日本のオブザーバーを集めて、都内で開催された。(なお、今回の開催については、それぞれの国がそれぞれの国でかかった費用を負担した)

GSO 所長ジョージの、開催に向けた非常に感動的なスピーチは、「BOX 916」の 5 月号で紹介させていただいたが、それに続いて全員の自己紹介の後、各国における AA の歴史と現状についての報告、さらには、それぞれの国の文化的背景の中で AA がどう効果をもたらしているのかという報告に、質疑応答や意見交換が行われた。ホンコンでは中国人の AA ミーティングが小人数ながらも行われ、ビッグブックも NY の GSO の援助で中国語版が発行されたこと、韓国は AA メンバーによって自立的に運営できるようになったこと、英 / 仏 / ビスマラ語と 3 か国語が公用語のパヌアツの AA は、各国からパヌアツに移り住んでいる国際色豊かなメンバーたちによってミーティングが運営されていること (ホンコンの英語の AA グループも同じ状況だが)、さらには、アメリカ在住のカンボジア人たちの AA ミーティングが定着しない問題について、その運営を手助けしているアメリカ人のメンバーから届いた助けを求る手紙や、また、今回は財政的に参加できないというオーストラリア、インド、トンガ、ペキン、サモアからの書面による報告や AOSM に対

する支援の表明も会場で紹介された。

文化的に自分の問題を人前で話す習慣がないとか、アルコールの飲用が社会的にも文化的にも大いに勧められているとか、宗教観が違うからといった、その国独自と思われていた問題は、アジアやミクロネシアの国々に限ったことではなく、どこの国でも、AAの先進国と考えられている欧米の国々でさえも共通したことであり、したがって、ハイパーパワーの概念や文化の違いが問題というよりも、AAの出版物がその国の言葉に翻訳されていないためにAAの存在が知られていない、メッセージが届けられないという、言葉の壁を解決することに話が向けられた。

ニューヨークのGSOで管理しているAA国際出版基金には我が国のAAも毎年2千ドルを予算化して献金しているが、その出版基金によって「ビッグブック」が、中国語（広東語）、ベトナム語、タイ語といった東南アジアの国々の言葉や、アラブ語、トルコ語、ペルシャ語などの回教国の言葉、さらにはアフリカのスワヒリ語、またポーランド、ロシア、リトアニア等の共産圏の国々の言葉に次々と翻訳され、さらにはAA導入のためのパンフレット類の各国語への翻訳作業も途切れることなく続いている。ペキンのAAグループから寄せられた中国語（北京語）の出版物の援助を求める手紙に対しては、早速ホンコンとNYのGSOが対応することになった。バヌアツではビッグブックの4章5章をビスラマ語に翻訳し、メッセージを運んでいるとのこと。このように翻訳による直接の援助や、出版への資金面からの協力、さらに各国の出版物にたいするニーズに耳を傾け、探り出すことといった援助は、今すぐにでも始めることができる。

たった一日という短い開催日のなかでも、昼食の後に「今日一日」というテーマで参加者によるAAオー

ブンミーティングが行われ、回復の経験が分かち合われ、フェロウシップが深められた。

AOSMの今後の開催については、WSMのない年に隔年毎に開催；費用については分担金制度を取らず自国でかかる費用は自国で負担；参加国の資格の制限は一切なし；各国の代表者は2名まで；という指針が出され、今回は1997年ニュージーランドで開催し、事務局は引き続き日本のJSOが担当して、より多くの国々へ参加を呼びかけることになった。

日本のAAもWSMには1986年から毎回参加しているが、WSMの場合、国としての参加資格は全国的なサービス体系が整っていること、あるいはゼネラルサービスオフィスがあること、となっている。これをアジア/オセアニア地域にあてはめると、WSMに参加できるのはオーストラリア、ニュージーランド、日本のほかには、かろうじてGSOを持つインドしかない。そのような条件のもとでWSMに参加している国々は、どこもAAの歴史が長く、メンバー数も多く、AAの存在も地域社会の中でよく知られており、我が国から見れば“恵まれている”国ばかりである。それに対して、アジア/オセアニアの“恵まれていない”国々、小規模で、小人数で、サービス構成どころか、ミーティングを継続して運営するのがやっとという国々と経験を分かち合い、隣の国々にメッセージを運ぶことの大事さを今回の会議であらためて認識し、事情の許す限り、我が国からも将来のAOSMに積極的にかかわっていきたいというのが、当日の感想である。詳細な内容については、WSM報告書と一緒に後日各グループに送付させていただく報告書をぜひお読みいただければと願っている次第である。

AOSM事務局

## 全国代議員集会の結果報告 常任理事会を設置すること を代議員は採択！

現在もその余韻の中にありながら、あのAA20周年記念集会の感動と歓喜を言葉に表すことは、私にとっては困難というより、不可能なことです。同じように全国代議員集会の様態も、私の文章能力がないために、残念ながら味気ない報告書にならざるを得ないことをお許しください。

とにかく、全国代議員集会の結果報告をいたします。

全国で262グループがJSOに登録され、過半数を超える149グループの参加（委任状を含む）で集会は成立しました。準備室を委託されたときが一番の心配と悩みは、果たして過半数の参加が得られるかど

全国代議員集会の地域別表決権とその行使

地域区分	登録グループ	代議員出席	代理出席	議長委任
北海道地域	18	6	1	4
東北	18	9	0	2
関東甲信越	110	62	2	2
中部北陸	27	16	0	1
関西	38	6	0	3
中四国	17	9	1	2
九州沖縄	34	12	2	9
総計	262	120	6	23

うかでした。当日の議場閉鎖後の有権者数の報告を事務局から聞くまで、ドキドキの連続でした。表からもお分かり頂けますように、過去の代議員集会とはおもむきを変え、質、参加者、内容の面からいっても全国代議員集会という名称に値する集会であったと思います。(関西大震災が、いかに大きなものだったかと、その影響の大きさに気づかされました。仲間たちの復興を祈らずにはおれません。ガンバレ! 関西!)

「常任理事会を設置するか」の表決結果(149票)  
 常任理事会設置に賛成: 138票(議長委任23票含む)  
 常任理事会設置に反対: 10票  
 白票: 1票

当日の唯一の議題である「常任理事会を設置するか?」についてパネラーから説明がなされましたが、予定されていたパネラーのほかに、当日飛び入りでニューヨークGSOのゼネラルマネージャーもパネラーとして説明に加わってくれ、その後に質疑応答の活発な討議がなされました。紙面の関係から詳細に報告できないことは残念ですが、メンバーの方々には、代議員および集会に参加された多くの評議員から直接報告されるものと確信いたします。なぜならば、3時間の会議中、誰ひとりとしてアクビひとつせず、集中しておられた姿を、私も壇上からつぶさに見ておりましたが、その熱気たるやスゴイ! としか表現できませんでしたから。代議員だけに表決権を認めた準備室の選択は間違っただけではなかったと思いました。

討議に時間をかけたいと思いつつも、時間に制約があり、質問や意見を残しながらも賛否を問わねばならなかったのは心残りです。表決の結果は圧倒的多数

によって「常任理事会を設置する」ことが採択されました。

#### 全国代議員集会収支報告(概略)

収入: 全国代議員集会会場献金	174,300円
支出: 準備室関係支出	
—印刷、郵送、事務消耗品	55,750円
J S O委託分支出	
—代議員等への郵送経費	63,090円

\* 全国代議員集会の諸費用につきましては、会場での献金だけで賄うことになっておりましたが、参加者のご理解とご協力により、予定通り無事、会場献金で運営することができました。なお集会事務局では、残金55,960円を、当日会場での追加経費の充当およびJ S Oへの献金にすることを決定致しました。

昨年のG S Mでは、今回の集会の事務室を九州地域委員会メンバーにご指名いただき、感謝申し上げます。試行錯誤を繰り返しながらも、何とか無事に集会開催を終えることが出来ました。今回の試みは、何かしら今後の日本のAAサービスの在り方を示唆したものであると思っております。集会開催にあたっての規定やグループへの広報、および集会運営、進行にあたっては、何かとご迷惑をおかけし、心からのお詫びを申し上げながら、全国代議員集会準備室を解散いたします。

なお、具体的な体制につきましては、今年7月に開催されるG S Mの場で話し合われるわけですが、メンバー各位の総意が反映されて形作られていくものと確信します。今まで以上に活発な討議をやっていきましょう。

みなさん、ありがとうございました。

全国代議員集会議長

## 新刊案内 AA日本20年史

### いくたびもの出会いを重ねて

—AA日本20年の歩み— ¥2,000.— (送料¥300)



現在の日本のAAの歩みをたどった“20年史”がこのたび完成しました。

本誌では、日本語のステップミーティングが初めて東京蒲田で開催された1975年3月をさらにさかのぼり、在日外国人によって開かれていたAAミーティングの記録、そして医療関係者や高知アルコール問題研究所による我が国へのAA紹介・導入の活動やアメリカのAAとのコンタクトの状況の記録等にも触れています。

日本全国の各地域におけるAAの歩みは各地域の担当者が詳細にまとめました。AAグループ活動およびAA日本の全体活動に関連した年表は、グループの誕生、イベント、メッセージ、サービス、広報活動、そして出版物発行の流れをカバーしています。

さらには日ごろ関係者のかたがたやメンバーの皆様から寄せられるAAについての素朴な疑問についても、AAの出版物を参照しながら取り上げてみました。